

第4章 ビジョンの実現に向けて

ひこね共創ビジョンの実現に向けて、公共空間の利活用の方法に関する取組みや体制づくりについて検討しました。

取組みは、駅前お城通りを中心として、「賑わい」や「育み」に関する取組みを進めながら、まちなか全体に波及していく「巡り」の取組みを展開していきます。

取組みの展開にあたっては、公共空間の管理者である行政にはじまり、活用の主体の利用者（市民や民間事業者）の連携のもと、共創の育みの一つともなる、エリアプラットフォームを構成し、展開していきます。



ひこね共創ビジョンの実現に向けた取り組み

公共空間の利活用を中心とした「賑わい」、「育み」、「巡り」の共創の取り組み

「賑わい」に関する取り組みは、特に共創のショーケースを担う駅前お城通りとその両端の公共空間の利活用を推進し、ビジョン実現の下地をつくることを目的とします。

「育み」は、その下地をもとに、交流や対話が生まれ、まちに彩りを加えていく取り組みです。「巡り」は、ショーケースに導かれた魅力や人の集まりについて、人を中心としてまちを回遊して楽しむモビリティに関する取り組みを進めていきます。

「賑わい」「育み」「巡り」の共創に向けた取り組み案

『賑わい』 まちに人が集まるきっかけを共創

共創のショーケースとなる駅前お城通りの利活用再編事業を中心として、まちに人が集まりやすい空間や環境づくりとなる公共空間の整備と利活用を推進する、ビジョン実現の下地づくりともいえる取り組みを展開

- ① 彦根駅西口駅前広場整備と利活用
- ② 駅前お城通りの整備と利活用
- ③ 立花船町線 休憩スポットづくり
- ④ 立花佐和線の整備と利活用

『育み』 まちで健やかな関係を共創

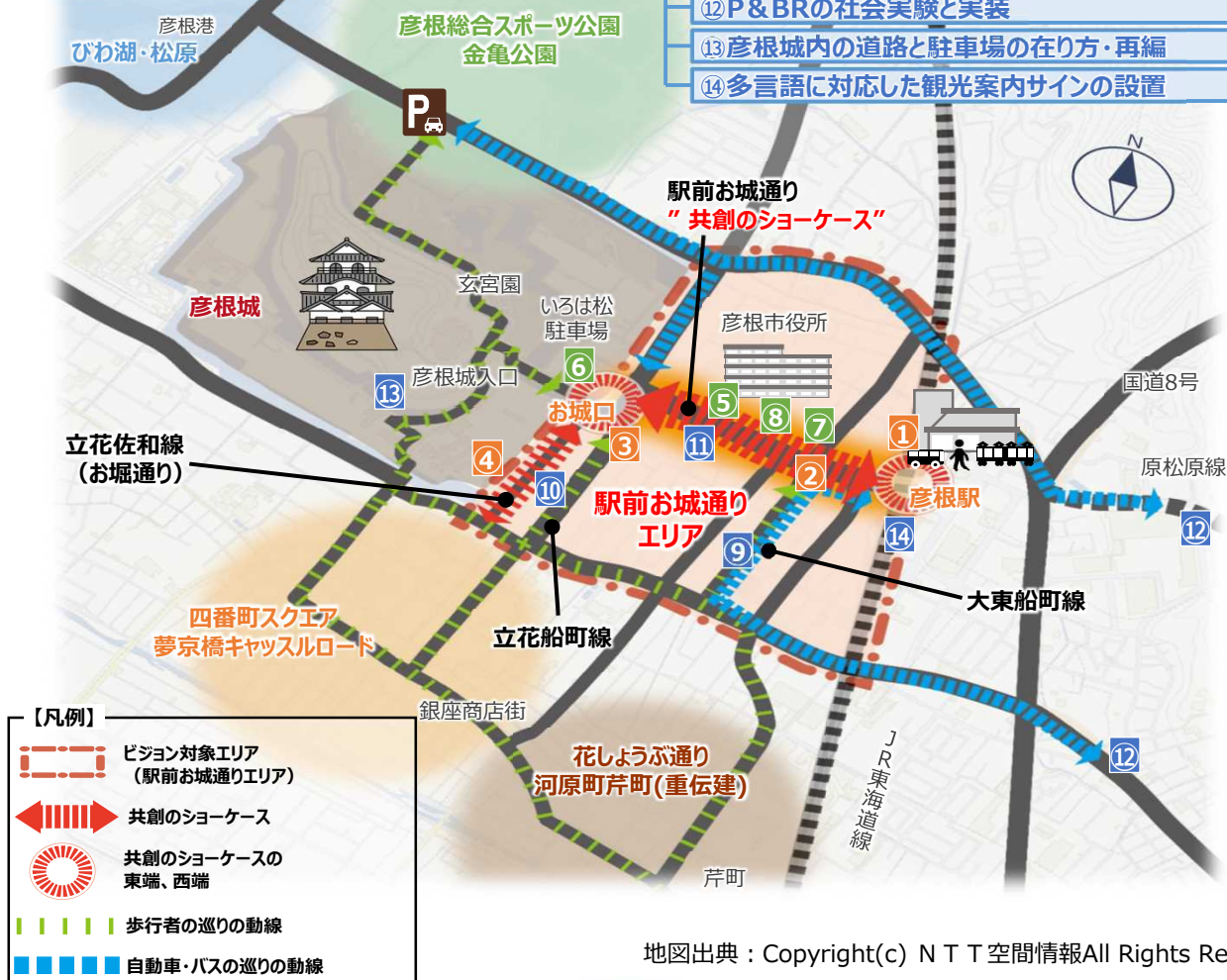
健やかな関係を築くなかで、様々な人が交流や対話の中で、彦根らしさ体現していく活動や景観づくりを通じ、歴史のまちから未来を彩る取り組みを展開

- ⑤ 市役所前広場の整備と利活用
- ⑥ いろは松駐車場の再編と利活用
- ⑦ まちとひとに緩やかな眺望景観の修景
- ⑧ 学習交流機会の創出、PRの場づくり

『巡り』 まちの魅力を楽しむ回遊を共創

駅前お城通りを中心としてエリアを巡り、まちを回遊していくモビリティを支援や、一般自動車が不要にまちなかへ進入しない、人中心とした交通体系づくりに資する取り組みを展開

- ⑨ 大東船町線の整備
- ⑩ 立花船町線の整備
- ⑪ グリーンスローモビリティの社会実験と実装
- ⑫ P&BRの社会実験と実装
- ⑬ 彦根城内の道路と駐車場の在り方・再編
- ⑭ 多言語に対応した観光案内サインの設置





共創の実現に向けた取組み

公共空間の利活用を中心とした「賑わい」、「育み」、「巡り」の共創の取組み

主に「賑わい」を通じて共創を目指していく取組みは以下の通りです。

『賑わい』 まちに人が集まるきっかけを**共創**する取組み案

①彦根駅西口駅前広場整備と利活用

実施予定

駅前お城通りの東端 “共創のゲートウェイ”の創出

エリアの玄関口となる彦根駅西口の駅前広場の整備を推進し、人中心のまちとしての案内を果たします。

駅前広場は、交通結節性を高めるだけでなく、人が待ち合わせを行ったり、休憩するところ等、滞留しやすい環境づくりを目指します。

《整備方針》（彦根市総合交通戦略（2020年）より）
交通の結節点として交通を処理する機能だけでなく、人々が憩い、集うための交流機能や、まちの景観を形成する景観機能も有する駅前広場とする。

整備後のイメージ

▼彦根駅西口駅前広場



現状

②駅前お城通りの整備と利活用

新規

駅とお城を結ぶ “共創のショーケース”の創出

駅前お城通りは、歩車分離されており、中央分離帯部には高木が植えられている、駅と城を結ぶまちのシンボル道路です。ただし、人通りが少なく、またその沿道も活気が低下しており、まちを彩る人の活動が感じにくい道路です。

まちの中心として、公共空間である道路空間の利活用を促進し、共創のショーケースとして、ビジョンの実現に向けて、彦根のまちや暮らしを市民や観光客に発信していく、回遊の起点として、また沿道の店舗と共に賑わいづくりを目指していきます。



取組みのイメージ

▼駅前お城通り



現状

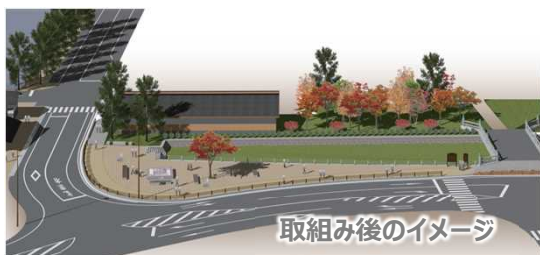
③立花船町線 休憩スポットづくり

実施予定

駅前お城通りの西端

“共創のスポット”の創出

駅前お城通りの西端であり、まちなかの中心ともいえる護国神社とお城口に、人が滞留ができて、交流や会話休憩スポットとして整備していきます。



取組み後のイメージ

④立花佐和線の整備と利活用

新規

駅前お城通りから夢京橋を 掛け渡す“お堀通り”の創出

（第2の共創のショーケース）

対向車のすれ違いが困難な狭い道路、非常に歩きにくい。抜群の内堀ロケーションを活かして、憩いと賑わいを創出していきます。



取組みのイメージ



現状



共創の実現に向けた取組み

公共空間の利活用を中心とした「賑わい」、「育み」、「巡り」の共創の取組み

主に「育み」を通じて共創を目指していく取組みは以下の通りです。

『育み』まちで健やかな関係を共創する取組み案

⑤ 市役所前広場の整備と利活用

共創のショーケースに並べる “新庁舎前の新しい交流広場”

新庁舎前を広場としても活用、社会実験として実施したランチ広場など、新しい空間の創出と利活用を推進していきます。



資料出典：彦根市地域経済振興課

新規

⑥ いろは松駐車場の再編と利活用

共創のショーケースに並べる “交流創出に向けた既存施設の利活用”

まちなかの中心であるいろは松駐車場は、現在大型バスの駐車場として利用されています。ただし、コロナの環境下、さらにはマイクロツーリズムの台頭により、その利用率は下がっています。彦根総合スポーツ公園等、エリア外側で駐車場が確保できれば、更なる賑わいづくりとしての活用を検討していきます。

活用の可能性を
今後検討



新規

⑦ まちとひとに緩やかな眺望景観の修景

共創のショーケースに並べる“緩やかな眺望景観づくり”

16年もの月日を経て、緩やかに眺望景観が変化、特に景観に配慮した屋外広告物への整序化が進んでいます。今後も、景観計画等に基づき、まちとひとにやさしい緩やかな眺望景観づくりを推進していきます。将来的には、アーケードや照明についても彦根城の眺望に配慮し、見直しを行っていきます。



実施中



実施予定

⑧ 学習交流機会の創出、PRの場づくり

共創のショーケースに並べる“まちと商工と大学とのコラボレーション等、公共空間の利活用に向けたきっかけづくり・人づくり”

彦根市では、商工会議所が主催する企業支援講座やゼミナールが多数開催されています。また、滋賀大学の学生たちが、学びの場所を求めています。更には、健康な身体づくりの指向が増えています。このように彦根市が目指しているまちづくりについて、それぞれのPRの場づくりとして、彦根独自の食の発信など産官学の取組みを推進していきます。

大学授業
(一般公開、課外授業)

健康な身体づくり

交流機会づくり

DX
ONLINE
SEMINAR
商工会議所主催
セミナー案内

2022年度
滋賀大学
公開講座等
開催のご案内

滋賀大学主催
セミナー案内

資料出典：彦根市商工会議所HP 滋賀大学HP

新規

写真出典：彦根市撮影



共創の実現に向けた取組み

公共空間の利活用を中心とした「賑わい」、「育み」、「巡り」の共創の取組み

主に「巡り」を通じて共創を目指していく取組みは以下の通りです。

『巡り』まちの魅力を楽しむ回遊を**共創**する取組み案

⑨大東船町線の整備

**“歩行者がゆったり安全に歩ける
巡りの動線の創出”**

車道の一部を歩道として再整備中。歩道をフラットにするバリアフリー化を進めています。



歩きやすい道路づくり



実施予定

⑩立花船町線の整備

**“歩行者がゆったり安全に歩ける
巡りの動線の創出”**

沿道のセッバック、無電柱化などを行い、歩車分離構造の路線として整備中。



実施中

⑪グリーンスローモビリティの社会実験と実装

**“回遊を支援する
人に優しい新しい低速モビリティ”**

グリーンスローモビリティは、時速20キロメートル未満で公道を走ることができる電動車を活用した小さな移動サービスです。静穏性に優れ、短距離の往復移動に適した環境にやさしいモビリティサービスとなることが期待されます。



令和4年社会実験時



実施中

⑫P&BRの実装

**“クルマで来ても回遊しやすい
まちにクルマを増やさない乗り継ぎサービス”**

まちなかでの回遊には、クルマは不便。まちにクルマを増やさない、かついろんなところに立ち寄りすることがしやすい回遊バスへの乗り継ぎサービスを持続的なものとします。



パーク&バスライド



彦根城～彦根ICを連絡

実施中

⑬彦根城内の道路と周辺駐車場の在り方・再編

“彦根城の景観と環境の向上”

彦根城跡の景観や環境の価値を高めるため、彦根城周辺にある駐車場を段階的に再配置しながら、自動車利用の抑制を推進します。また、城内においては自家用自動車の通行を一部制限することを検討します。



資料出典：彦根市交通マスタープラン



アクティビティ性が高い
モビリティを導入しやすい

新規

⑭多言語に対応した観光案内サインの設置

“まちや回遊の案内”

彦根市公共サインガイドラインに基づいて、統一性や連続性が確保された観光案内サインの設置に取り組む。特に外国人旅行者や障害者、高齢者などの方々等、誰もがわかりやすいピクトグラムを活用していく観光案内サインの充実を図ります。

外国人をはじめとして、彦根に不案内の方に
わかりやすい観光案内サインの設置



実施中

写真出典：彦根市撮影



体制と取組みの実践に向けて

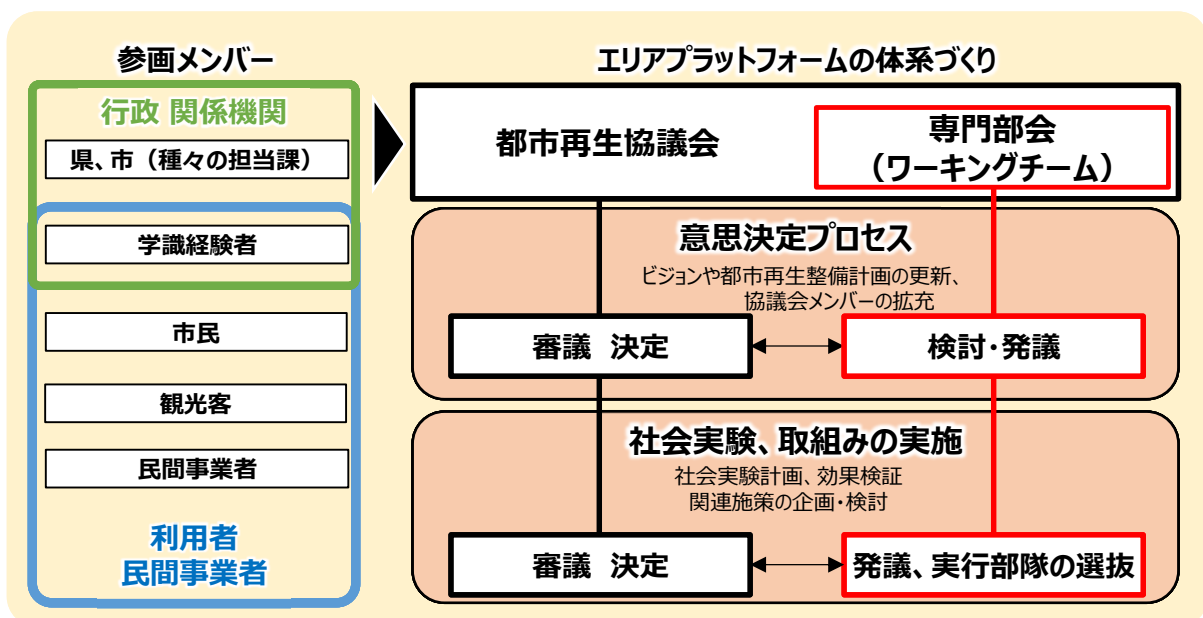
エリアプラットフォームづくりと取組みの推進による共創

公共空間の利活用を推進するひこねの共創は、道路や広場などの公共空間を十二分に活用していくことにあるため、公共の管理者である行政、活用の主体の利用者（市民や民間事業者）で取組みを展開していく必要があります。

ビジョンに掲げる取組みは、従来の行政だけではなく、利用者も意思決定や取組みを実施していくためのエリアプラットフォームを形成します。

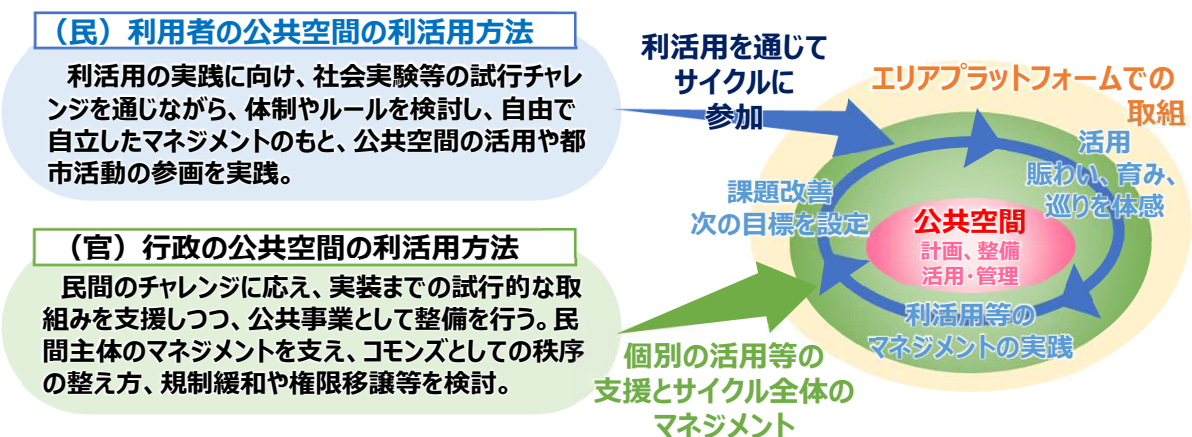
エリアプラットフォームでは、利用者側、行政側の公共空間の利活用の方法に基づき、利活用の実践に向けた体制構築やルールなどを検討しながら、自由で自立した取組みがサイクルのように循環するようなマネジメントを検討していくことが重要です。

共創に向けた推進体制 エリアプラットフォームの体系



※エリアプラットフォームは、今後の見直しにより、変更の可能性があります。

共創に向けたエリアプラットフォームのマネジメント





体制と取組みの実践に向けて

駅前お城通りの整備と利活用から導く、各取組みのタイムライン

彦根駅周辺エリアにおいて、エリアプラットフォームが主体となり、取組みの構想・計画・実験・運用・マネジメントを検討していく先導的な取組みとして、駅前お城通りの整備と利活用の新規事業化を図ります。

駅前お城通りの整備と利活用は、“共創のショーケース”づくりを推進するとともに、ビジョンで掲げる各取組み案を加速させ、なおかつ、エリアプラットフォームの体制を築くものとして、社会実験を実施しながら推し進めていくものとしします。

エリアプラットフォームでの取組みのタイムライン（取組みの目標時系列）

